

# 平成 21 年度 東商エコリーグ 事業報告書

平成 22 年6月

## ■事業概況:

<全体傾向(平成 21 年4月1日～平成 22 年3月 31 日)>

平成 22 年3月末現在の参加事業者数は、対前年度比で 109 件減(全体の約5%減)の 1,925 件であった。昨年度まで2年連続微増傾向にあったが、一部地区で未回収事業所の確認整理を行なったため、その数が大きく影響した。

年間回収量は約 1,826 トンで、対前年度比で約-125 トン(約-6.4%)と減少に転じた。回収量の増減傾向は各地区各様だが、全体の 75%(9地区)が減少地区となっている。

長引く景気後退が、排出事業所の新規参加と古紙の発生ヘブレーキとなっているといえる。

<地域別傾向>

参加事業所数が増加した地区は、新宿(3社)、北(1社)の2区で昨年より4区減少した。一方減少区は、港(-5社)、台東(-84社)、世田谷(-21社)、荒川(-1社)、渋谷(-2社)の5区で昨年の2区に比較して倍増した。

回収量では増加区が墨田、北、板橋の3区で昨年の5区より2区減少した。減少区は港、新宿、台東、江東、太田、世田谷、中野、荒川、渋谷の9区で昨年より2区増加した。

<所感>

これまで大量リサイクル時代といわれてきた古紙マーケットは、一昨年のリーマンショックに続くギリシャ危機等の景気後退により、新たな局面を迎えつつある。都内問屋の新聞買取価格は、平成 20 年5月には 14.5 円/kg(以下中間値、東京都資源回収事業協同組合標準価格より)だったが、リーマン後には 6.5 円/kgまで下落、回収コスト割れにまで及んだ。22 年6月には9円/kgまで持ち直したものの、上海万博特需のかげりとともに、すでに輸出量と価格は弱含みの感がある。

古紙の需給バランスは、立ち直りの早かった中国への輸出と国内メーカー減産によって、過剰在庫を解消するのに1年とかからなかった。しかし、長引く古紙の発生減が価格の完全回復に至っていない回収業界には重石となっている。実は国内メーカーの製紙生産・払出実績は平成 20 年より減少に転じている。平成 21 年の新聞用紙は対 19 年比で-9.1%、印刷情報用紙に至っては-22%に落ち込んでいる。新聞協会発表の新聞発行部数は 10 年間で約7%減となるだけでなく、インターネット閲覧の普及や、電子書籍端末の販売が開始されるなど、これまで新聞用紙の軽量化が新聞用紙生産量頭打ちの要因であるとの説明が効かない環境となってきた。

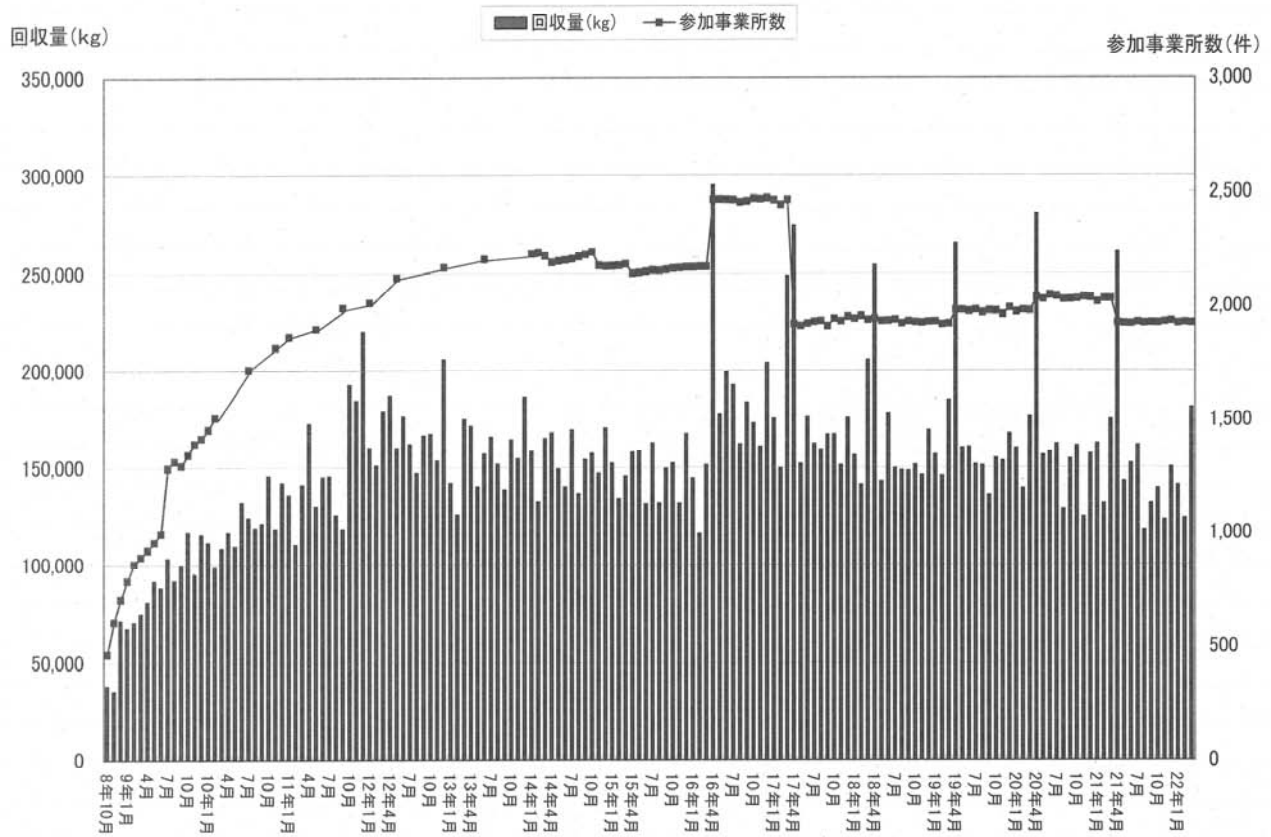
この状況は、東商エコリーグの回収量減少傾向の原因と重なる。新聞以外の品目は、参加事業者数に比例増減するが、新聞は事業者数変動にかかわらず平成 11 年以降緩やかに減少の一途である。OA用紙等についても発生抑制傾向にあり、これからは「参加事業所増、すなわち回収増量」ではなく「適量リサイクル」の時代になってこよう。

23 区の事業系一般廃棄物処理手数料が4円値上げとなってから2年を経過した。リサイクルへのインセンティブが働き、当事業への参加ニーズの高まりを期待したが、目に見えた効果は確認できていない。事業系ルート以外へ出される向きがあれば、行政による事業者責任の指導徹底を期待するところである。東商エコリーグは、今後 23 区で家庭系ごみ有料化が実施された場合にはなくてはならない存在でもある。引き続き東商会員へのシステム PR のみならず、支部を通じて各区との連携を一層緊密にする必要があるといえる。

報告書作成: 東リ協会(社団法人東京都リサイクル事業協会)IBR団連(東京都リサイクル事業団体連合会)

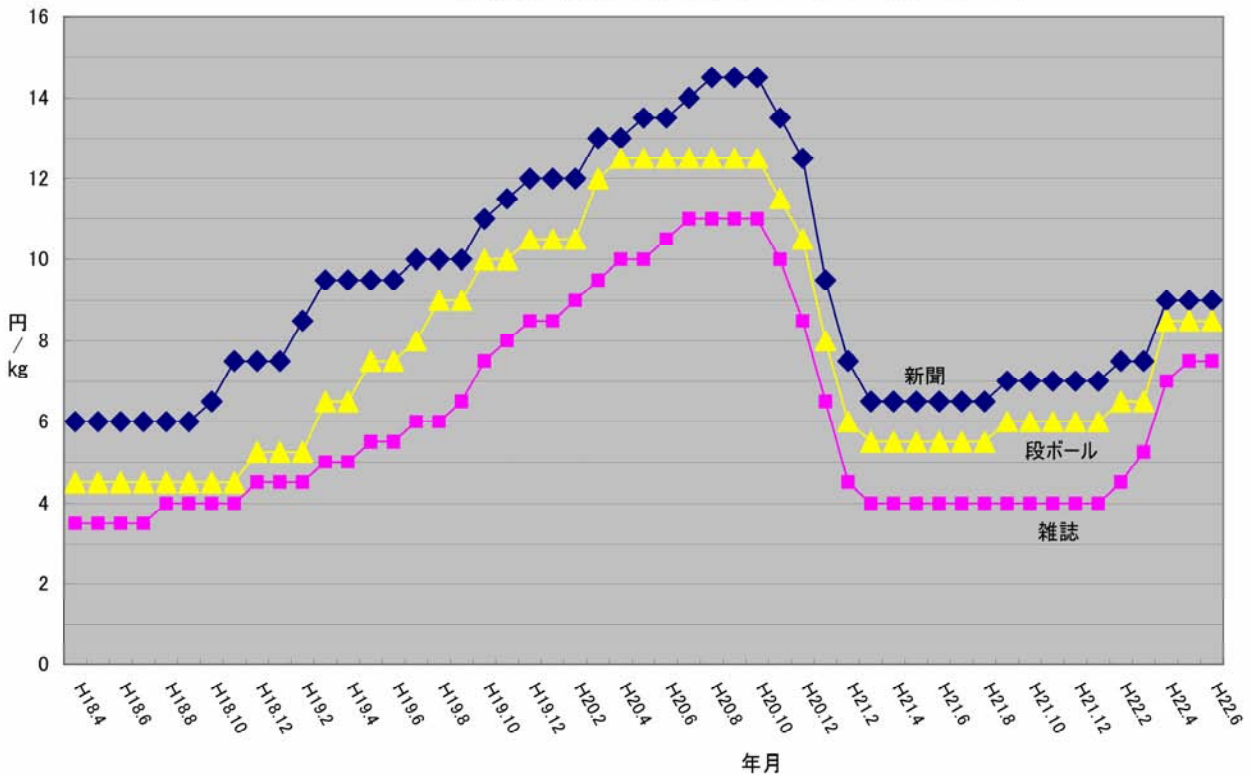
〒111-0055 東京都台東区三筋 2-3-9-701 TEL:03-5833-1030 FAX:03-5833-1040



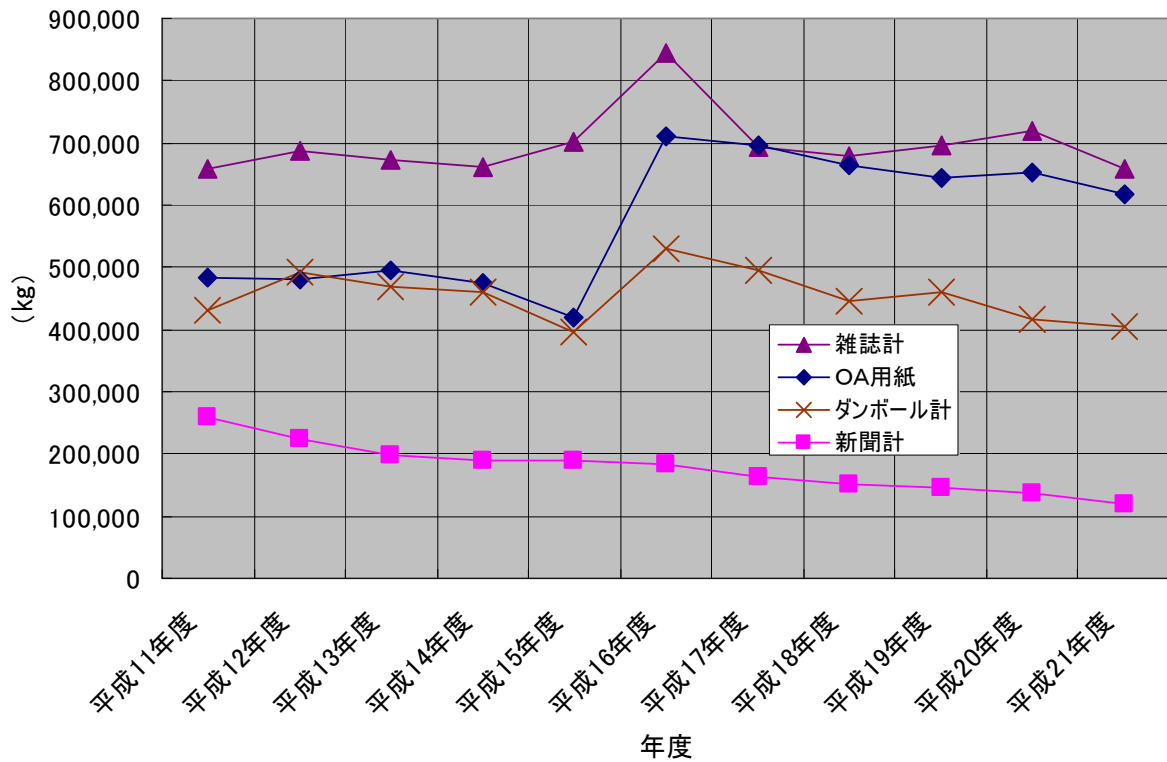


古紙価格推移(問屋買値)

価格は中間値 東京都資源回収事業協同組合より

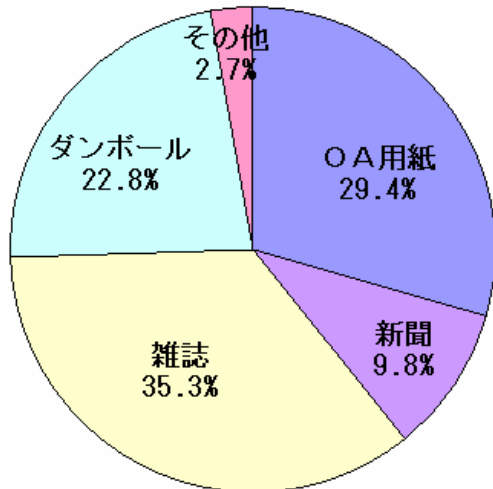


### 品目別回収量経年変化



### ■回収古紙別割合 (平成8～平成 21 年3月)

東商エコリーグ 回収古紙別割合 (平成8年10月～平成22年3月)



過去 13 年間の古紙回収実績から、回収古紙別の割合で最も多いのは、雑誌で約 4 割 (35.3%)、次いでコピーや連続用紙などが約 3 割 (29.4%)、段ボールなどの梱包材が約 2 割 (22.8%)、新聞古紙が約 1 割 (9.8%) の組成となっている。